



# *Our History*

## 大阪のロータリー100年の歩み

# 1. 2660地区の夜明け（1920年～39年）

## <大阪RC誕生>

1922年、日本で2番目となる**大阪RCが誕生**した。現在の2660地区最初のRCである。1920年日本で最初の東京RCが誕生して2年後の事である。創立のきっかけは、東京RCの創立に深く関わり初代幹事を務めた福島喜三次氏が大阪に転勤になったことである。福島氏は加島銀行の星野行則氏と出会い、ロータリーの理念に打たれた星野氏は大阪RCの創設に奔走し、1922年11月17日大阪実業界トップ25名のチャーターメンバーで設立総会が開催された。福島氏もその中の一人である。



## <関東大震災復旧復興支援>

創立間もない大阪RCの重要な役割は翌1923年に突然訪れた。**関東大震災**の支援活動である。機能不全に陥った東京RCに代わり、世界中のRCからの支援の申し込みを仲介した。創立間もない大阪RCのメンバーにとっては、超我の奉仕の精神に基づいた人道的奉仕活動、そして国際ロータリー（RI）とは何たるかを知る貴重な機会となった。



## <ロータリーの広がり と 暗雲>

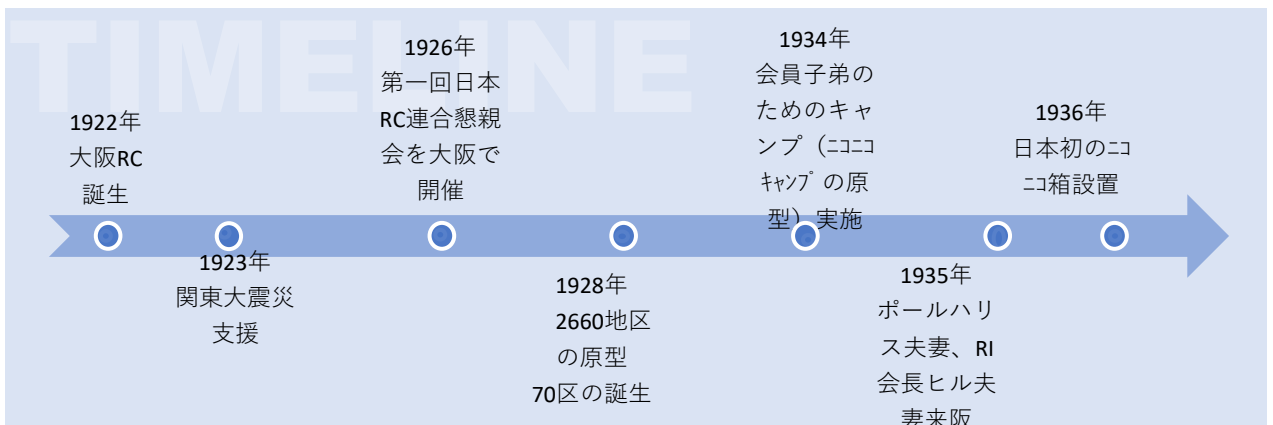
1924年に神戸RC、名古屋RC、1925年に京都RCが誕生し、1926年5月東京RC、大阪RCを含めた5クラブによる**第一回全日本RC連合懇親会**が大阪で開催された。日本のRCという連帯感が生まれる初めての機会となった。その後1928年に日本、満州、朝鮮、樺太、千島による**70区が誕生**し地区の原型が出来たが、日本の軍国主義台頭による海外領土をベースとしたものであり、必ずしも国際的に祝福されたものではなかった。



## <暗雲の中でのロータリー活動の推進とポールハリス夫妻来訪>

世の中には暗雲が漂い戦時色が強まり始める中、国家、政治とは一線を画しロータリーの志を貫こうとする活動が続いた。1934年には後の**ニコニコキャンプの原型**となる会員子弟のためのキャンプが実施され、1936年には例会で日本初の**ニコニコ箱**が設置された。当初の例会への遅刻やバッジの付け忘れなどで使われていた罰金箱を発展させたもので、その後全国のクラブで実施されるようになった。

そんな中、1935年2月には**ポールハリス夫妻、ロバートヒル RI会長夫妻**がマニラで開催された第5回大平洋地域大会出席の途中に日本を訪問した。天候不良で船の到着が大幅に遅れ、大阪滞在はわずか1日という強行日程であったが、温かいもてなしと対話を通して、暗い世の中に負けずロータリー精神を貫こうとする日本のロータリアンの心がポールハリス氏に伝わったことは想像に難くない。



## 2. 苦難と忍耐の時代（1940年～48年）

### <苦悩の決断：RIからの離脱>

日米開戦の気配が濃厚となる中、国家権力の弾圧による解散より自発的にRIを離脱し、ロータリーの名前を失う代わりにロータリー精神、組織を維持するという英断の下、1940年8月12日に**大阪RCは解散された**。同年11月には**大阪金曜会を発足**させ、戦時下の厳しい時代ではあったが、会員相互に工夫をし例会は途絶えることなく継続され、ロータリー精神が消えることはなかった。



### <守り続けたロータリーの心：RIへの復帰>

9年間RIから離脱していたが、大阪金曜会として実質的な活動を続けてきたことがRI本部に認められ、1949年4月13日にRIへの**再加盟が承認**された。大阪RCを含む7クラブが第60区の指定を受け、同年7月1日に発足した。新たな門出に会員のロータリー精神は大いに高揚した。

## 3. 新たな門出（1949年～59年）

### <日本のロータリー再生と結束>

1951年、大阪RC生みの親である星野行規氏が第60地区ガバナーに就任し、翌52年4月に大阪中之島公会堂にて第60地区地区大会が開催された。日本の全クラブが参加する地区大会としてはこれが最後となったが、日本のロータリーの再生を祝福すると共に、将来への日本のロータリーの結束を確認し大会は成功裏に閉会した。

### <ロータリーの全国展開>

同年7月には日本全体66クラブを東日本の60区、西日本の61区に2分割し大阪RCは61区に属することとなる。2地区に分割されても情報を共有化し連帯を保つための機関誌として「ロータリーの友」が発行されることになった。新たな社会基盤、体制の整備により全国で新たなクラブが続々と誕生し、クラブの増加に伴い1955年には4地区、1957年には5地区と急速に地区の数も増加することとなる。

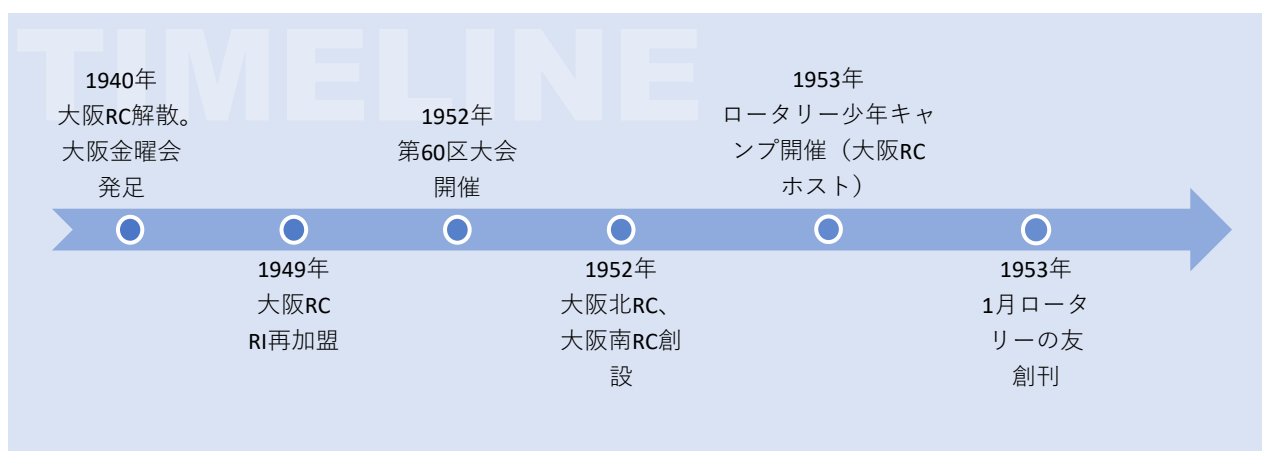


### <大阪地区の新たな歴史：新たなクラブの誕生>

1952年には**大阪北RC、大阪南RCが誕生**し地区は新たな歴史を刻むことになった。これ以後、1954年には池田RC、高槻RC、1957年には大阪西RC、東大阪RC、大阪東RC、1958年には吹田RC、1959年には豊中RC、茨木RCと新たなクラブが誕生した。地区基盤の確立と拡大が急速に進展し、現2660地区地域内のクラブ数は11クラブとなった。

### <青少年奉仕の先駆け>

クラブ活動基盤の確立と共に新たな奉仕活動への取り組みも始まった。1953年には大阪RCがホストとなりニコニコキャンプの前身である**ロータリー少年キャンプが開催**され、地区に移管されるまで、まだ豊かでなかった社会の青少年育成に大きな役割を果たした。



## 4. 地区基盤の確立（1960年～69年）

### <東京国際大会>

旧ソ連による世界初の人工衛星の打ち上げを皮切りに新たな時代到来の機運が高まる中、1961年5月28日～6月1日東京でアジア初の第52回**ロータリー国際大会が開催**された。74か国23000名のロータリアンが参加し、天皇陛下のお言葉、池田総理大臣の挨拶と共に会議の様子はNHKにより全国放送され、現在の2660地区からは約600名が参加した。大会の前後には関西を訪れる多くの海外のロータリアンがメイクアップのため例会に出席した。日本のロータリーの結束を世界に示す機会となり、当地区ロータリアンの意識も高揚した。

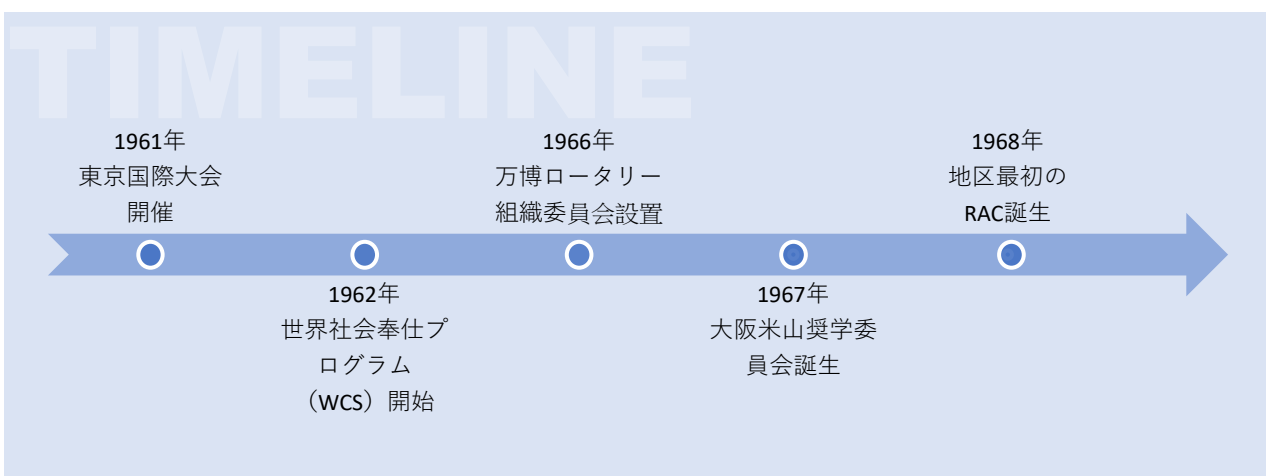


### <国際奉仕活動へのチャレンジ>

「もはや戦後ではない」との言葉通りの日本経済再生と共に、クラブ活動も活発となり、国際奉仕分野での新たなチャレンジが始まった。海外での人道奉仕活動支援のため**世界社会奉仕プログラム（WCS）が開始**され、世界社会奉仕委員会のリードで1965年に開始されたロータリー財団のマッチンググラント補助金制度を用いた新たなプロジェクトを各クラブに紹介すると共に、地区としても独自のプロジェクトを企画実施した。後に国際奉仕活動で全国トップのリーディング地区となる胎動であった。

### <青少年奉仕活動へのチャレンジ>

青少年奉仕活動でも新たなチャレンジが始まった。第二次世界大戦で途絶えた諸外国との絆を再構築する目的で1952年に創設された米山記念奨学制度に本格的に取り組むため、**大阪米山奨学委員会が発足**し米山奨学生受け入れに本格的に取り組むこととなった。また、1968年青少年育成の場として米国で世界初のローターアクトクラブ（RAC）が誕生したのに呼応し、1968年地区初の**大阪北RACが誕生**した。翌年には大阪RAC、大阪南RAC、守口RACが加わり当地区RAC活動の歴史が始まった。



## 5. 奉仕の拡大と進展（1970年～81年）

### <地区基盤の拡大>

順調な日本経済の発展に伴い、新たなクラブも続々と誕生した。1960～1969年の10年間で16クラブ、1970～1979年の10年間で21クラブが新たに誕生し、1982年の2660地区誕生時には52クラブとなった。

### <大阪万博開催>

戦後の困難な時期を克服した日本の高度成長期を象徴する一大イベント日本万国博覧会（通称大阪万博）が1970年3～9月183日間開催され6422万人の入場者で賑わった。

1966年には開催担当地区として万国博ロータリー組織委員会が設立され、会場に200名収容の「**国際親善館エキスポクラブ**」を設置し全国のロータリークラブに移動例会開催を呼びかけることになった。建設費用4000万円は全国のロータリアンに負担をお願いした。

結果は大成功となり、開催例会数153回、主催クラブ232クラブ、参加延人数23380名の大盛況であった。

この他、大阪RCが中心となり、13クラブが共同で会場にバラ園を寄贈した。世界各国から送られてきた50数種13500本のバラは今も「平和のバラ園：Rotary Peace Rose Garden」として訪れる人の目を楽しませている。



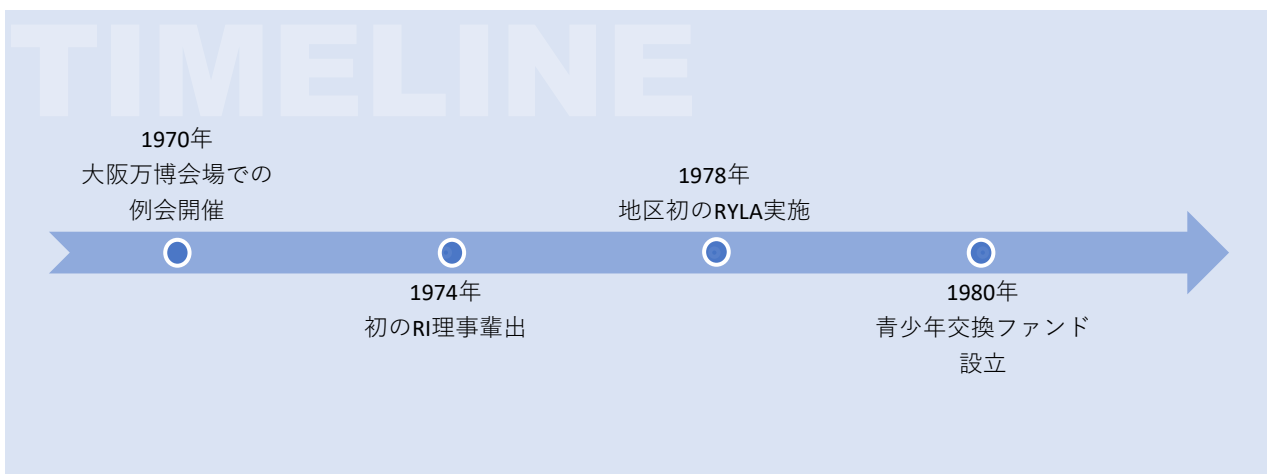
### <青少年奉仕活動の進展>

青少年奉仕活動でも新たな進展が見られた。1978年には**日本初の春のRYLAセミナー**が大阪府羽衣青少年センターにて開催され、以後毎年春、秋の2回開催されることとなった。また、1953年以来大阪RC主催で開催されてきた青少年キャンプのホストが地区に移管され地区行事として開催されることとなり、**仲良しキャンプ**として毎年開催される地区行事として定着した。更には、1974年にRIが開始した青少年交換プログラムの地区内ルールが整備され、プログラム推進のための「**青少年交換ファンド**」が設けられ本格的な取り組みが始まった。



### <RI理事の輩出>

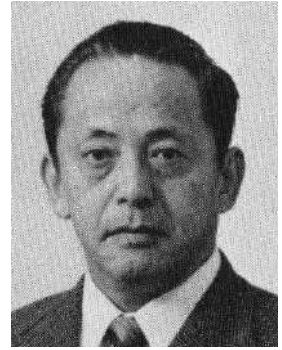
1974年、大阪北RCの原田秀雄パストガバナー（PG）が、当地区輩出の初のRI理事に就任した。RI理事は日本を代表してRI運営に直接携わるものであり、その輩出は地区の国内外でのステータスが上がり地区にとっても大きな名誉である。原田RI理事以降、1985年には大阪RCの伊藤恭一PG、2002年には大阪北RCの菅生浩三PG、2010年には千里RCの近藤雅臣PGがそれぞれRI理事に就任し日本のロータリー代表としてRIの発展に大いに貢献した。



## 6. 奉仕の深化：青少年育成、国際化の推進 (1982年～94年)

### <2660地区の誕生>

1982年、大阪府、和歌山県全域を含む世界でも有数の巨大地区であった266地区が大阪府北部の266地区と大阪府南部および和歌山県の264地区に分割され、52クラブからなる現在の2660地区の前身である**266地区が誕生**した。新生266地区の初代ガバナーは八尾RCの戸田孝氏であった。1982年は奇しくも大分県中津RCの向笠廣次氏が日本人として2番目のRI会長に就任した年であり、戸田氏は日本のロータリーをリードする地区のガバナーとして、向笠RI会長を支え新生266地区を率先垂範して率いる決意を新たにした。地区内全てのロータリアンにこう呼びかけている「皆さんはロータリーの理想の実現に最もふさわしい人であり、地域の職業を代表する大きな影響力を持ったチャンピオンです。そのチャンピオンが集まって組織されたロータリークラブは素晴らしいエネルギーに溢れた個性豊かな集まりです。自己を磨き蓄えたエネルギーを価値ある行動に燃烧させてゆかねばなりません」。



### <身体障がい児童白浜招待>

社会奉仕活動も活発に続けられた。1984～1989年の6年間にわたり実施された**身体障がい児童の白浜招待旅行**は特筆すべきものである。

地区内全クラブの協力のもと、障がい児童120名をロータリアン100名、ボランティア50名が付添い白浜に1泊2日で招待し、白浜アドベンチャーワールドを見学し宿舎ではゲーム等で楽しい時間を過ごしてもらった。マスコミ、ロータリーの友にも取り上げられ地区主催社会奉仕活動の看板行事であった。



象さんも熱烈歓迎  
好物のパナナをオヤツ袋から象さんにプレゼント♪



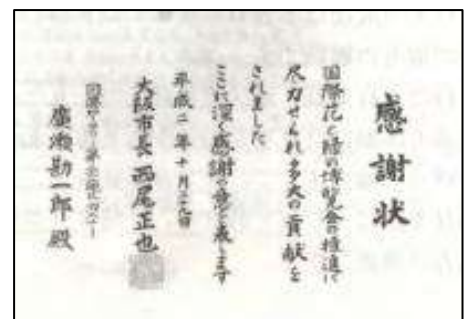
国産梅田市コナオード新地に集合の要約者

### <女性ロータリアン誕生>

1989年、RIは女性ロータリアンの入会を認め、1990年には当地区で**初めての女性ロータリアン**が誕生した。吹田江坂RCチャーターメンバーの栢本淑子氏である。日本では17人目であった。続いて同じ年に守口RCに2名が入会し当地区でも女性会員に門戸が開かれたが、女性の社会進出が進まない日本社会の趨勢に倣い女性会員の増加速度は芳しくなかった。

### <国際花と緑の博覧会（通称：花博）への協賛>

1990年4月1日から9月30日までの183日間の会期で花博が大阪鶴見緑地で開催され、2313万人の来場者で賑わい大成功のうちに閉幕した。「21世紀に向けて潤いのある豊かな社会の創造を目指す」との大会テーマはロータリーの理念と一致し、開催地元地区として当地区は成功に向けて地区を挙げて積極的に協力した。



全国各地からの寄金は1億900万円に達し、会場中央のCTM（リニア周遊モノレール）街の駅に面した街の駅広場（通称ロータリー広場）にシマサルスベリの並木を寄贈した他、RI特別補助金も活用して低開発7か国からの園芸技師の旅費滞在費を補助し、目の不自由な人向けの展示パンフレット5千部を寄贈した。また、会場で迷惑駐車追放キャンペーンイベントを開催する等ロータリーは博覧会の成功に大いに貢献した。バブル景気の末期であり、経済もロータリーもまだ右肩上がりの時代の最後の大会イベントであった。

### <青少年奉仕活動の推進>

青少年活動も活発に行われた。ローターアクトは全国に先駆けて**献血活動**に取り組み、以後毎年恒例の行事となっている。また、青少年交換プログラムを体験したOB、OGがこれから海外に出る日本人交換学生、来日している海外からの交換生をサポートするための新たな組織**REXが誕生**した。更には、在阪米山奨学生OBによる同窓会が発足し、ロータリーに恩返しするための新たな役割を担う事となった。



R.E.X.(交換学生の会)の新年パーティー



学友懇談会 於YMCA会館

### <財団学友中田厚仁君カンボジアで死亡>

悲しいニュースもあった。1989年度のロータリー財団奨学生として米国に留学した財団学友で、大阪大学を卒業後国連ボランティアに採用された中田厚仁君が1993年4月3日カンボジアで選挙監視任務中に凶弾に倒れ殉職した。25年の短い生涯を一途に駆け抜けた若者の死は多くのメディアにも取り上げられた。

父親の中田武仁氏は厚仁君の遺志を継ぎ国連ボランティアを支援するための「**中田厚仁記念基金**」を設立し、当地区内だけではなく全国のロータリアンから多くの善意の寄付金が寄せられた。



## TIMELINE

1982年  
266(現在の2660  
地区)誕生

1984年～1991年  
障がい児白浜招  
待旅行実施

1992年  
財団学友中田厚  
仁君カンボジ  
アで死亡

1983年  
青少年交換OB会  
(REX)誕生。  
RA献血活動開始。  
在日米山奨学生  
同窓会発足

1990年  
地区初の  
女性会員誕生

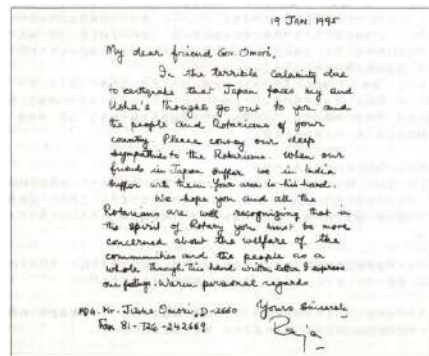
## 7. 新たなロータリーの模索（1995年～2010年）

### <阪神淡路大震災復旧復興支援>

1994年、泉州沖に日本初の24時間空港となる関西国際空港が誕生し、大阪の新たな時代の幕開けの気分が高まる中、1995年1月17日午前5時46分マグニチュード7.2の**阪神淡路大震災が発生**し、150万都市神戸は壊滅状態に陥った。各クラブや各RACはいち早くボランティアや募金活動等独自の復旧支援活動を始めた。2月3日に地区災害支援対策本部が設けられ各クラブに募金を呼びかけたところ約3500万円の善意の寄付が寄せられ、2800万円を2680地区（兵庫県）に送り、残りは被災児童のニコニコキャンプへの招待、あしなが育英会への寄付等に充てられた。RACは3か月にわたりボランティア活動を行い、また、被災遺児の里親クラブ制度を設け、4才から高校生までの7名の遺児を預かる等、弱者に寄り添うロータリー精神を発揮した。



写真：神戸新聞サイトより



ラジンドラ・K・サブール元RI | 会長からのお見舞い

### <ロータリーの構造改革：DLPへの取り組み>

社会経済活動の拡大と共にロータリーも発展を続け、1990年代に入ると世界の会員数は120万人を超え、2660地区の会員数も5000名を数えた。肥大化する組織をより効果的、効率的に運用する新たな仕組みの必要性を痛感したRIは**地区リーダーシッププラン**（DLP：District Leadership Plan）と呼ばれる新たな地区運営プログラムを提案し、1997年度より導入を開始した。DLPは地区運営効率化のため組織をスリム化し、併せてクラブへの支援をより迅速に密度濃く行うためのガバナー補佐の設置を骨子とするものであったが、それぞれに異なる国や地区の実状を必ずしも十分に反映したものではなかった。当地区でも導入には消極的であったが、会員数減少による財政健全化のため地区組織のスリム化が必要との判断の下、2002年度に27委員会を18委員会に整理統合し現在の地区組織の原型が出来上がり、併せてガバナー補佐8名が任命された。

### <ロータリーの構造改革：CLPへの取り組み>

DLP導入に続き、RIはクラブの活力向上を図るため**クラブリーダーシッププラン**（CLP：Club Leadership Plan）と呼ばれる新たなクラブ活性化プログラムを提案した。CLPの目的はクラブ内の親睦を図り会員の連帯感を高め、会長、理事会、委員会、会員の十分な意思疎通とスムーズなクラブ運営により、より効果的な奉仕活動を行うためにクラブ自らが考え変革を促す事であったが、日本ではRIの意図が十分に理解されず、委員会の数を減らすという組織の効率化に重きが置かれた。当地区では2006年から各クラブに対して取り組みが呼びかけられ、多くのクラブが委員会を整理統合し現在の委員会構成に移行した。結果的には1990年代後半から始まった会員数減少への対応策として機能することになったが、クラブの質的変革という本質的な課題への取り組みは先送りされる事となった。



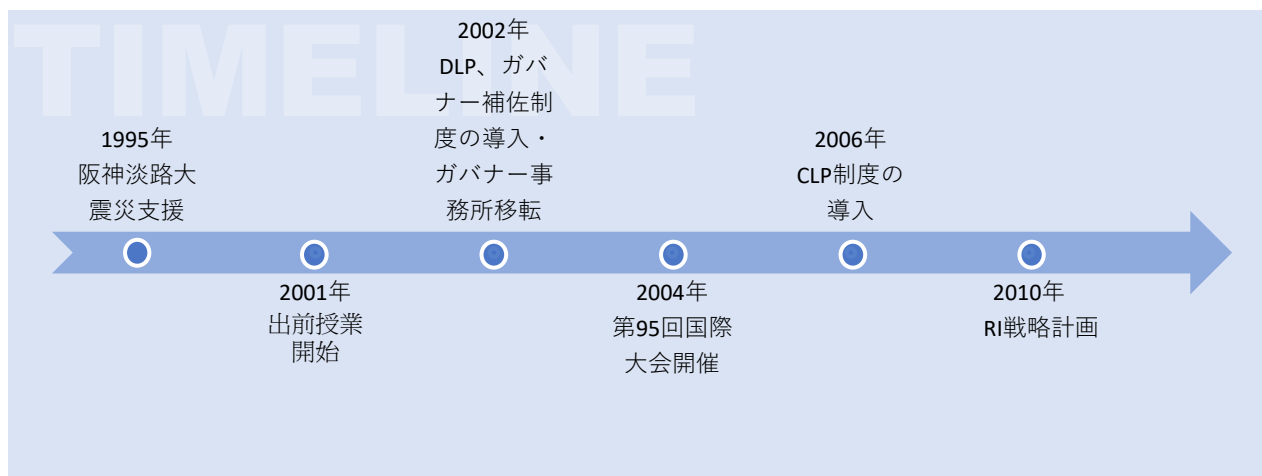
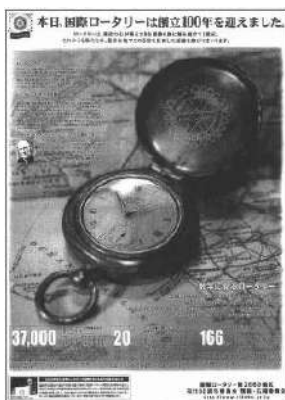
<第95回国際大会開催>

2004年5月20～26日、日本で3番目の開催となるRI**第95回国際大会が大阪で開催**された。1995年より2660地区が中心となり、関西4地区が協力して準備を進め、5月20～22日は国際研究会等のプレコンベンションを大阪国際会議場にて、23～26日の開閉会式・本会議は大阪ドームにて、友愛の家はリーガロイヤルホテルにて開催した。また、ホスト地区行事として京都デー、ウエルカムコンサート、道頓堀ナイト、神戸ナイトクルーズ、パークフェスタ（USJ）が開催された。参加者は111か国45560名であった。大会は大阪ならでの人情味溢れるホスピタリティーに富んだ内容で、内外からの参加者に大好評を博し大成功であった。2660地区総力の結集であり、全会員のロータリアンとしての自信と誇りを大いに向上させ、その力を国内外に示した。



<RI誕生100周年>

1905年2月23日にシカゴで産声を上げたRIは2005年に**創立100周年**を迎えた。RIは「ロータリーの100周年を祝おう」のテーマの下、世界の全ロータリアンに過去一世紀に感謝し、奉仕の第二世紀に向けて新たな挑戦の一步を踏み出すよう呼び掛けた。当地区でも海外のツインクラブとの国際奉仕（WCS）プロジェクトの実施及び100周年記念社会奉仕プロジェクトの実施を各クラブに呼びかけた。これを受けて多くのクラブが海外クラブと新たにツインクラブ協定を結び共同プロジェクトを実施すると共に、2月23日を中心に工夫を凝らした記念プロジェクトを実施した。バブル崩壊を契機に会員数も減少に転じ変革期に入ったロータリーにとっては、お祭り騒ぎというより新たな未来への一步を踏み出すロータリー改革の序章となる100周年となった。



## 8. 新たなロータリーへの挑戦（2011年～2021年）

### <東日本大震災復旧復興支援>

2011年3月11日14時46分、宮城県牡鹿半島沖130キロの大平洋を震源とするマグニチュード9.0の大地震が発生し、震度7の激震と最大40メートルの大津波、福島第一原子力発電所のメルトダウン事故により東北地方は壊滅的な被害を被った。全国のそして世界のロータリーはすぐに立ち上がり被災地に支援の手を差し伸べた。当地区でも震災直後には多くのロータリアン、ローターアクター他が、がれき処理、炊き出し、被災家屋の後片付け等のボランティア活動や不足食料、物資補給のために現地に入り復旧活動に従事した。また、各クラブから総額1億900万円もの多額の義捐金が集まり、約2500万円が被災地3地区に送られ、約3700万円は希望するクラブが独自に行う支援活動に充てられた。2011年7月には約4700万円の義捐金を地区で一括管理し、各クラブの支援活動に補助金を支給するための災害支援プロジェクトが設置され、復旧から復興に至る息の長い支援を行う受け皿となった。各クラブ及び災害支援プロジェクトが実施した支援事業の総額は1億3千万円に上った。



### <ロータリー財団の構造改革（FVP）>

ロータリー財団は、補助金申請件数の急激な増加に伴いRI本部の事務処理能力が限界に達したため、補助金制度を抜本的に見直す「**未来の夢計画：FVP（Future Vision Plan）**」と名付けたプロジェクトを立ち上げ、補助金の事務処理手続き、認可権限を大幅に地区に移譲し、より効果的で大きな成果を上げる施策を骨子としたロータリー財団の構造改革案を策定し2013年より世界全地区に導入した。当地区でも2011年FVP委員会が設置され、FVPのスムーズな導入を目指して各種検討を行うと共に、全クラブを対象としたセミナーを開催し内容の紹介と啓発に努めた。新しい制度、仕組みへの各クラブの理解と適応は早く、補助金申請数で全地区のトップを行くグローバル補助金を用いた大規模な国際奉仕活動への取り組みは揺るぐことなく継続され、また地区補助金を用いた国内外の社会奉仕活動も活発に行われ今日に至っている。

### <中長期ビジョン、戦略計画の策定：新たなロータリーの模索>

1990年代後半からの先進国の会員数減少に危機感を募らせたRIは、時代の要請に応じた新たなロータリーの在り方の検討を進め、2010年に長期的な国際ロータリーの方向性を示すRI戦略計画を発効させた。また、2017年にはロータリーの理念を示す新たな**ビジョン声明**が発表され、2019年にはビジョン達成のための新たな戦略計画が発効した。新たな戦略計画は、4つの戦略的優先事項とそれを達成するための行動計画、使命、中核的価値観からなり、5か年有効である。当地区では2015年に地区戦略計画委員会を発足させ、地区の戦略計画（中長期計画）の検討を進めると共に各クラブにも委員会を設置しクラブの中長期計画策定を呼びかけた。また、2017年には今後5年間の**地区ビジョン**を策定し、各クラブにも地区ビジョンを踏まえたクラブビジョンの策定を推奨した。

### <元青少年交換学生ピューリッツァ賞受賞>

うれしいニュースもあった。2003-04年度ポーランドからの青少年交換留学生として高槻西RCのお世話で1年間日本で学んだアントニー・スロドコフスキーさんが2019年度ピューリッツァ賞（国際報道部門）を受賞した。スロドコフスキーさんはロンドン大学卒業後国際通信社のロイター東京支社に勤務し2011年東日本大震災を取材し全世界に発信した。ミャンマー支局長時代にロヒンギャ難民問題を取材しその功績が認められた。2019年4月から再び東京支社勤務で現在も高槻のホストファミリーと親交があり、高槻は第二の故郷と言ってはばからない。青少年交換により世界に大きく羽ばたいた若者の誇らしい事例である。



## <地区の変革>

ロータリーを取り巻く環境の変化に応じたRIの動きに呼応して2660地区でも新たな動きが相次いだ。2015年にはIMの規模を適正にし新たな役割を果たすため、それまでの8組体制が**6組体制**に再編された。また、それぞれの組織、グループの学友が一つの仕組みとしてロータリー活動を支援するため学友会が発足した。更には2016年のRI規定審議会で決定された例会開催頻度、出席要件、会員身分制度の緩和ルールを受けて各クラブは独自のルール策定を行った。2018年には地区初の衛星クラブ「大阪南なみはやRC」が誕生し、新しいクラブ誕生への新たな試みが始まった。2019年の規定審議会ではローターアクトクラブをRIの正式なメンバーとして迎えることが決まり、ローターアクトクラブの新たな役割が期待されている。

## <コロナとの闘いーその1ー>

2019年秋、中国武漢で発生したとされる**新型コロナウイルス感染症**はその感染力の強さから急速に世界中に広がり重症化死亡リスクの高さから世界はパニックに陥った。2020年1月16日に日本で、29日には大阪で最初の感染者が確認され、治療方法、治療薬も不明で4月7日～5月25日には初めての緊急事態宣言が発出され、医療現場のみならず社会全体が大混乱となった。ロータリー活動も大きな影響を受けた。2020年度の3月以降の地区行事は全て中止となり、各クラブの例会もほとんどが休会となったが、地区及び多くのクラブは困難を押し、医療現場、教育現場、介護施設等で不足するマスク、フェースシールド、防護服、医療用テント等を独自のルートで調達し寄贈する奉仕活動を実施した。



## <コロナとの闘いーその2ー>

2020～21年度に入ると新たな第2波、第3波、第4波に襲われ、緊急事態宣言も2回発出されたが、3密回避等感染防止策や在宅勤務が浸透し、治療薬やワクチンも開発されコロナと共生する新たな日常が定着し始めた。ロータリー活動においてもZoom等のツールを用いた**WEB会議**が導入され、リアル出席とオンライン出席を組み合わせたハイブリッド形式での会議形式が浸透し、コロナ禍の下での地区大会等の地区行事、クラブ例会等でも採用され新たなロータリーの日常として定着した。



## <未来へ>

こんな中、1922年に大阪RCが誕生して以来100年の歴史を刻み、2022～23年度に当地区は100周年を迎えることになった。奇しくも当地区では初の女性ガバナーが誕生し、RIでは初の女性会長が誕生する。ロータリーのビジョン、戦略計画をより効果的に進めるため、RIは多様性、公平さ、インクルージョン（DEI）への取り組みを強化する方針を打ち出し、また未来形成委員会（SRF）を設け時代に即した新たなロータリー像を検討中である。ロータリー精神を実践し、弱き人々、困窮する人々を助けることにより今の社会を支え、ロータリー精神に溢れた明日の社会づくりをリードするための未来への新たな歩みが始まる。



